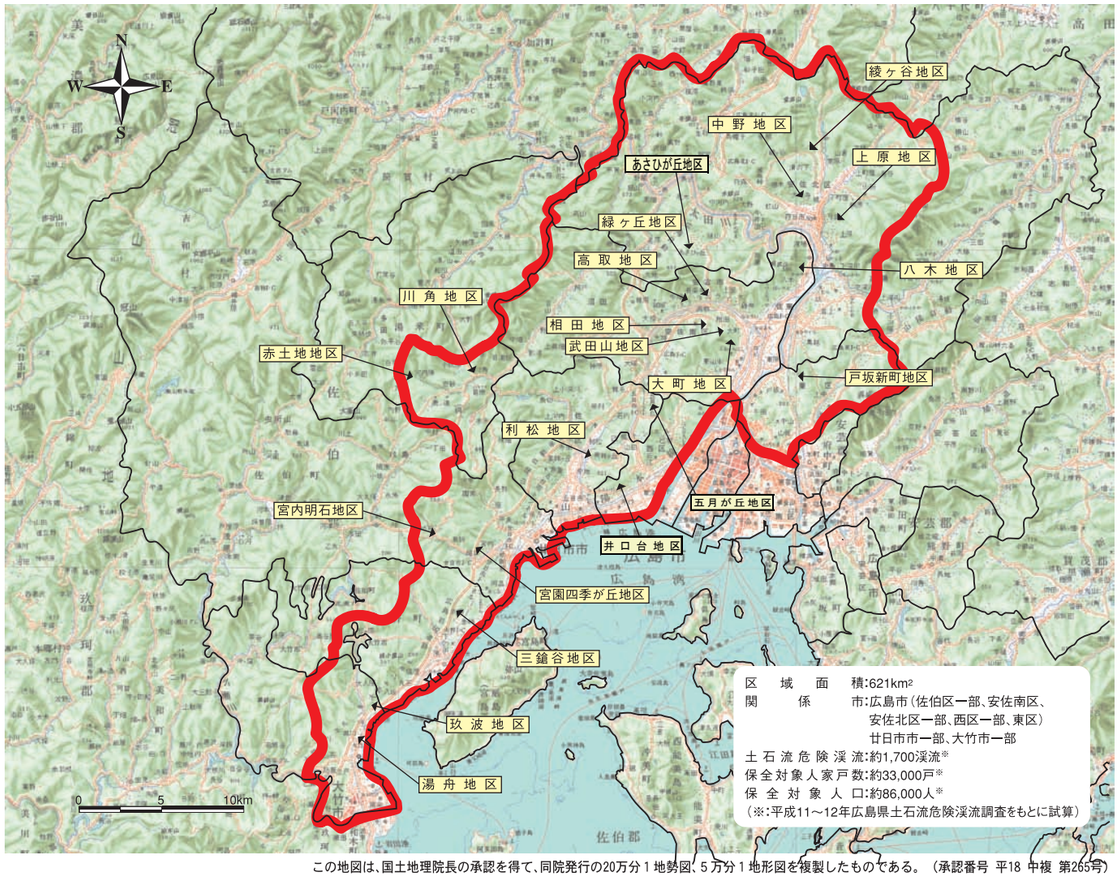
広島西部山系の概要

広島西部山系の土砂災害

広島西部山系は、広島市、廿日市市、大竹市にまたがる約６２１ｋ㎡の地域であり、平成１１年６月末の豪雨によって、広島県では土石流やがけ崩れなどの土砂災害により、２４名もの方が亡くなる大きな被害が発生しました。

この災害を契機として平成１３年度から国により人口や各種資産が集中する土地周辺地域を土砂災害から守るために広島西部山系直轄砂防事業に着手しました。現在は広島西部山系管内の２１地区で砂防事業を進めています。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分１地勢図、５万分１地形図を複製したものである。（承認番号 平18 中複 第265号）

安川左支川（広島市安佐南区）　（写真提供:広島県砂防室）

屋代川（広島市佐伯区）　（写真提供:広島県砂防室）

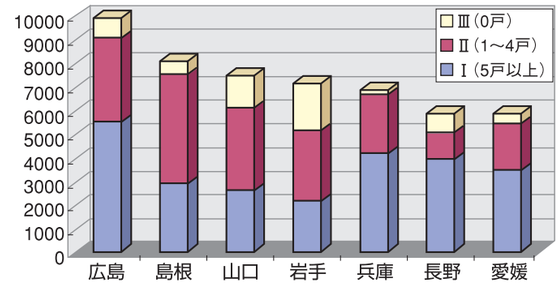
土砂災害が発生しやすい条件

土石流危険渓流が多い広島西部山系

土石流危険渓流とは、土石流が発生する危険性があり人家等に被害を及ぼす恐れのある渓流のことをいいます。土石流危険渓流は、定期的に都道府県ごとに調査を行っていますが、**平成14年度公表値によれば、広島県は土石流危険渓流が全国で最も多い県となっています。**

広島西部山系直轄砂防事業区域内には、5戸以上の人家に被害を及ぼす恐れのある渓流が約1,100箇所存在します。この数は県内の約20%に相当し、同区域の面積が県全体の約7%ほどであることから、区域内に危険箇所が集中していることがわかります。

土石流危険渓流が多い都道府県（平成14年度公表）

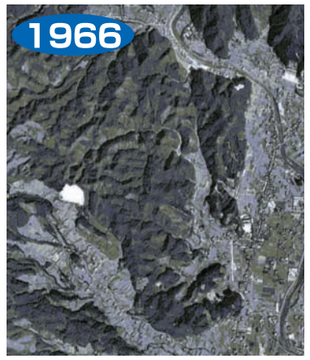


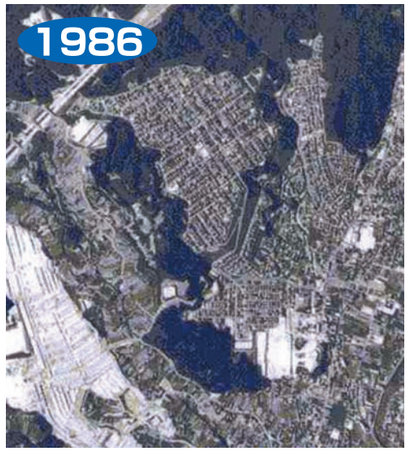
人口が集中する広島西部山系

広島西部山系直轄砂防事業区域内で土石流の被害を受ける恐れのある地域に暮らしている人は、平成14年度に公表された土石流危険渓流調査結果をもとに試算すると約86,000人にもなります。

また、同区域にかかる広島市等3市（旧大野町、旧湯来町を含む）の人口は、昭和25年の約51万人から平成12年の約126万人へと50年間で約2.5倍にもなっています。

人口の増加とともに、土石流の被害を受けやすい山麓斜面へと住宅開発が進んでいます。

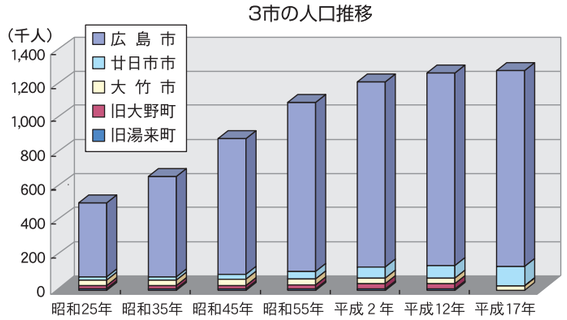




宅地化の変遷（航空写真）

この写真は、国土地理院の承諾を得て、同院撮影の空中写真を複製したものです。（承認番号　平13　中複　第217号）

3市の人口推移



雨に弱いマサ土

広島西部山系には、広島花崗岩が広く分布しています。この広島花崗岩は、風雨等の影響を受けやすく、風化して「マサ土」と呼ばれる砂質土に変化するため、表層の大半は、このマサ土が占めています。マサ土は侵食されやすく、ひとたび大雨が降れば山腹崩壊などを起こしやすいため、過去から多数の土砂災害が発生しています。

風化した花崗岩（マサ土）の崩壊状況　平成11年6月29日災害
（写真提供:広島県砂防室）